

あいつだより

【学校教育目標】
心豊かにたくましく共に生きる
児童の育成
～大好き自分 大好き友だち 大好き藍～

令和4年度 第11号(1/31) 三田市立藍小学校

ここ数日、日本列島は今季一番の寒波に襲われ、交通機関の乱れなど社会活動に大きな影響がありました。加えて、便利で快適な生活に慣れてしまった大人には厳しい寒さや積雪は体にこたえるものでした。一方、子ども達は変わらず元気です。雪の積もった校庭を駆け回り、雪遊びに夢中になっていました。

私には雪が降ると思い出す光景があります。小学生の頃、今は廃校になってしまった丹波の山間の学校で、膝まで雪に埋まりながら、雪合戦をした校庭の光景です。大人には皆同じような思い出があるものです。小学生や幼稚園児が大人になった時、この冬の寒い朝の校庭を思い出す日がきってくることでしょう。



地域の方に感謝を伝える方法を考えよう！

これは、児童会の「ありがとうこれからも集会」の内容を決める藍小委員会(代表委員会)の議題です。

計画委員からの提案理由には、「運動会の藍音頭、登下校の見守り、授業や放課後のがんばりタイムなど、日頃お世話になっている感謝を全校生で伝える機会を持ち、これからも藍小学校に来てもらい支えてもらいたいから」とありました。卒業前の6年生の提案でこの企画が持ち上がりました。会は2月14日に行います。歌やダンスを披露したり、一緒にゲームをしたり、お手紙を渡したりする予定です。

今年度は、ようやく校外活動ができるようになり、たくさんの地域の方にお世話になってきました。自然体験活動や校区探検のご指導、放課後教室に図書ボランティアなど多方面から子どもの学びを支援いただきました。子ども達の感謝の気持ちが届けばうれしいです。よろしく願います。

コミュニティスクールの取組～社会に開かれた教育課程をめざして～

三田市の小・中学校では、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを目的として、段階的にコミュニティスクールを導入してきました。藍小学校は令和2年度から、コミュニティスクールに取り組んでいます。本校は、これまでから地域で子どもを育てる環境づくりに向けて、多様な学校支援活動(学校支援ボランティア)の支えを受け学校運営を進めてきました。

来年度からは、三田市全体でこのコミュニティスクールの取組を一段階進めることになっています。各学校に「学校運営協議会」を設置し、保護者や地域住民等からなる委員により、学校教育目標の達成と子どもの健全育成をめざして、学校運営や必要な支援に関して協議を行うこととなります。これまで藍小学校区で進めてきた多様な学校支援活動を引継ぎながら、さらに学校と家庭、地域の連携を一層強化し、社会に開かれた教育課程を通して、共に子どもを育てる仕組みを活性化させる一つ的手段として、コミュニティスクールの取組を推進していきます。

《2月の行事予定》【ホームチャイム 16:30】

1	水	放課後あいつ教室(1,2年)	15	水	ハニーFM(1年)
2	木	R5年度入学児童説明会(PM)	16	木	
3	金	クラブ活動(3年生見学)	17	金	参観日、学級集会、臨時PTA総会 一斉終会【14:45】
4	土				
5	日		18	土	
6	月		19	日	
7	火	全校朝会 図書委員影絵(昼休み)	20	月	
8	水	ダイハツものづくり体験教室(5年)	21	火	
9	木	つつじが丘小との交流会(6年)PM	22	水	
10	金	クラブ活動(ラスト)	23	木	天皇誕生日
11	土	建国記念の日	24	金	なかま集会(2時間目)
12	日		25	土	
13	月		26	日	
14	火	(朝)ありがとう これからも集会	27	月	
			28	火	

【3月の主な行事予定】

2(木)6年生を送る会	10(金)委員会活動
20(月)大掃除、地区児童会	22(水)給食最終日、卒業式準備
23(木)卒業式	24(金)修了式



～ある朝の出来事から～

ある朝、校門で、鉄道の切符一枚を手渡してくる子がいました。通学路に落ちていたそうです。困っている人がいるのではと思い、届けてくれたようです。何人かがその切符を覗き込み、駅名を読もうとしますが読めません。そこには「六十谷」と記されています。「こんな駅名見たことない」「兵庫県にはないかも」と首をかしげています。

数日後、「駅名、わかりました」という子がいました。「おそた」と読むそうです。和歌山県にある駅だと教えてくれました。話を聞くと、タブレットの地図アプリに駅名を入力すると、航空写真のように駅舎まで見えるそうです。三田からどの線を乗り継げばいいのか、どんな電車が走っているのかなどたくさん教えてくれました。駅名は、関西難読駅名の一つに挙げられる駅名だったようです。

スマホやタブレットひとつで、さまざまな情報が簡単に手に入る時代になりました。しかし、知りたいと思わなければ情報を得ることはありません。なぜ?やどうして?と思う素朴な疑問が子どもたちに知らない世界を見せてくれるように思います。

